



I 自己評価

(1) 学校の教育目標

よく遊び・よく学ぶ はすぬまっ子 ◇ 児童と先生の合い言葉「あ・そ・べ」：あいさつ そうじ べんきょう
--

(2) 本年度、重点的に取り組む目標や計画

①確かな学力→個別の支援、家庭学習、読書活動を充実させ、児童の学力向上を図る。 （保護者・児童・職員アンケート該当項目80%以上、県学力検査で県平均越えが全科目の60%以上） ②豊かな心→「道徳授業」「豊かな人間関係づくり」「あいさつの励行」とおとして「思いやりや助け合いの心」を育てる。 （児童アンケート該当項目90%以上） ③家庭・地域との連携→保護者・地域人材・資源を活用した授業展開（全学年学期に3回以上実施）及び情報発信（HP週3回以上更新・学校だより月2回以上発行）を積極的に行う。 （保護者アンケート該当項目90%以上）
--

(3) 評価項目の取組状況と達成状況

評価項目	結果	理由(根拠)
確かな学力	C	個別支援については教職員の配置を毎月見直し、改善に努めた。家庭学習については毎月家庭学習がんばり週間を設け、家庭と連携して家庭学習の充実を図った。読書活動についてはお話ボランティアや図書支援員と連携し、読み聞かせや校内移動図書館を実施したり、「読書の木」活動を推進したりして読書活動の充実を図った。また、アンケートでは児童及び保護者の「学習したことが身につけている」、職員の「学習内容が定着するように工夫して指導している」の項目で肯定的な回答率80%以上を達成した。しかし、県学力検査で県平均を超えたのは全科目の50%であった。 保護者・児童・職員アンケート（後出）、県標準学力検査
豊かな心	B	児童アンケートの「気持ちのよいあいさつや返事をしている」、「命を大切に、学校や社会のきまりやマナーを守って行動している」、「思いやりをもって友だちと過ごしている」の項目で肯定的な回答率90%以上を達成した。また、考え、議論する道徳授業の授業研究を年2回、縦割り班による遊びを月1回実施したりすることで、思いやりや助け合いの心が育ってきている。 児童アンケート（後出）
家庭・地域との連携	B	全学年、地域人材・資源を活用し、児童と保護者・地域の方と一緒に体験する授業を学期に3回以上実施できた。また、地域ボランティアの方と連携し、毎週読み聞かせを実施した。HP週3回以上更新、学校だより月2回以上の情報発信をした。保護者アンケートの「学校の教育活動の様子がホームページや学校・学年だより、授業参観等を通してよくわかる」、「学校は、地域の施設や人材等を活用して、地域の教育力を生かした取り組みを進めている」の項目で肯定的な回答率90%以上を達成した。 保護者アンケート（後出）

(4) 学校評価の総合的な評価

評価	理由
B	重点項目を概ね達成することができた。特に豊かな心の育成では、児童アンケートの該当項目で年間を通して肯定的な回答が多かった。一方、確かな学力では課題が見られた。

※3と4の項目の評価結果の内容

S	目標を十二分に達成し、期待をはるかに上回る成果をあげた
A	目標を十分に達成し、期待された以上の成果をあげた
B	目標を概ね達成し、期待された成果をあげた
C	目標の達成が不十分であり、期待された成果に及ばなかった
D	目標を達成できず、通常の努力で得られるはずの成果が得られなかった

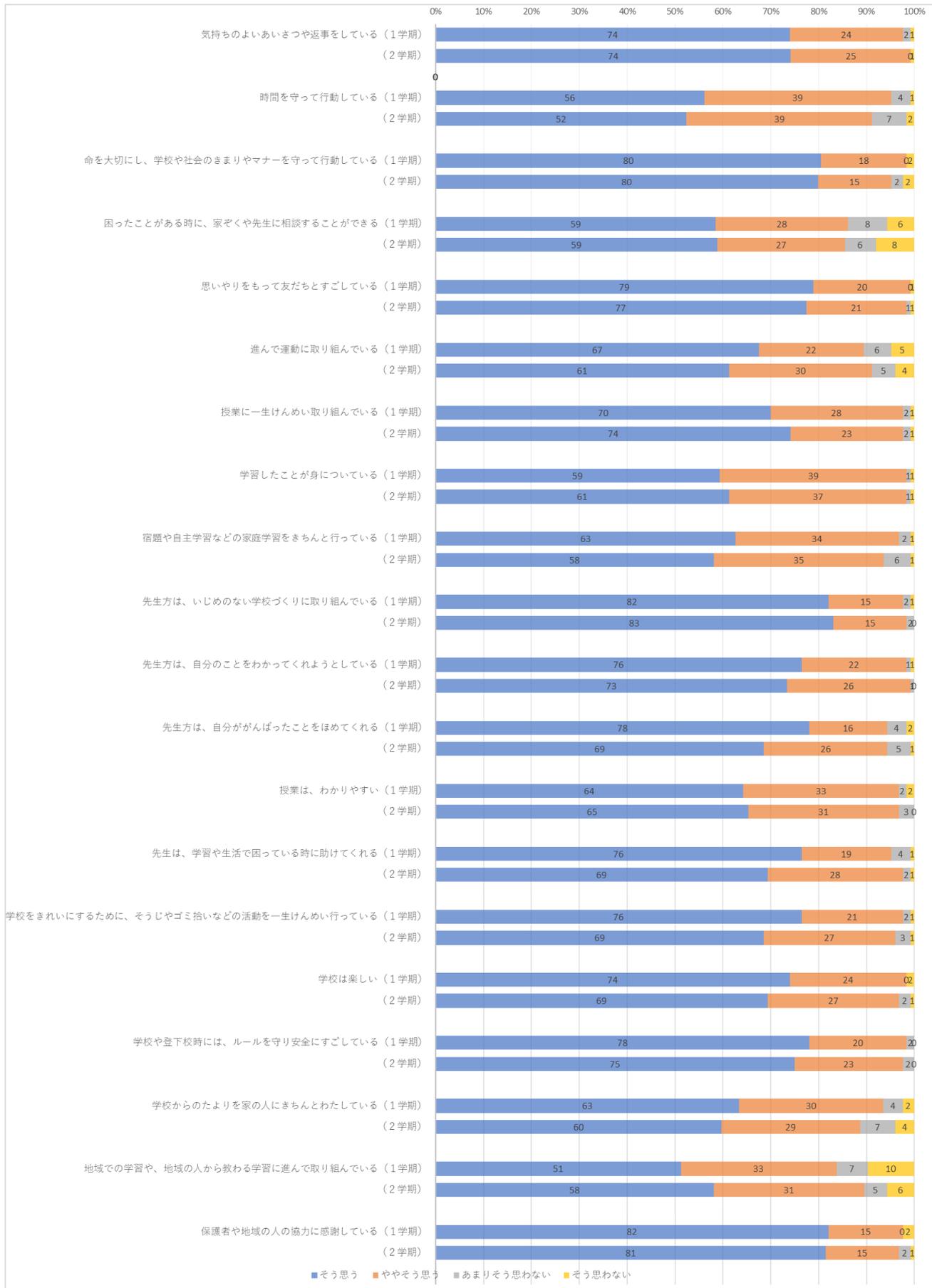
(5) 今後の取り組むべき課題

学力の向上	基礎・基本の定着を図り、個別の授業支援を行う。県学力検査で県平均越えが全科目の60%以上を達成する。
困りごとの相談しやすさへの対応	学校内外の相談窓口を繰り返し周知する。家庭だけでなく、直接児童へも周知する。家庭との連携を一層強化する。

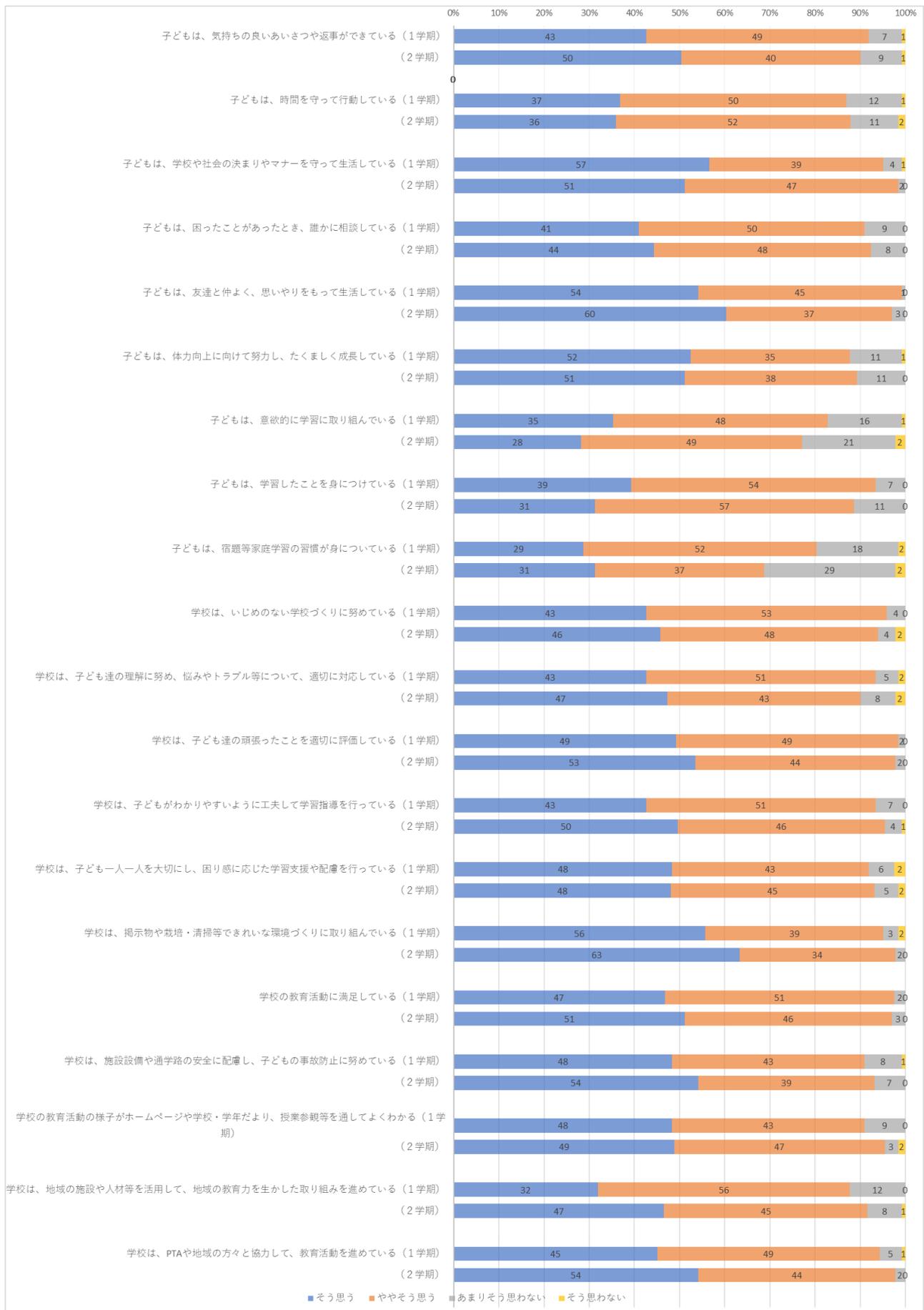
2 前期・後期学校評価アンケート結果

※数字は割合

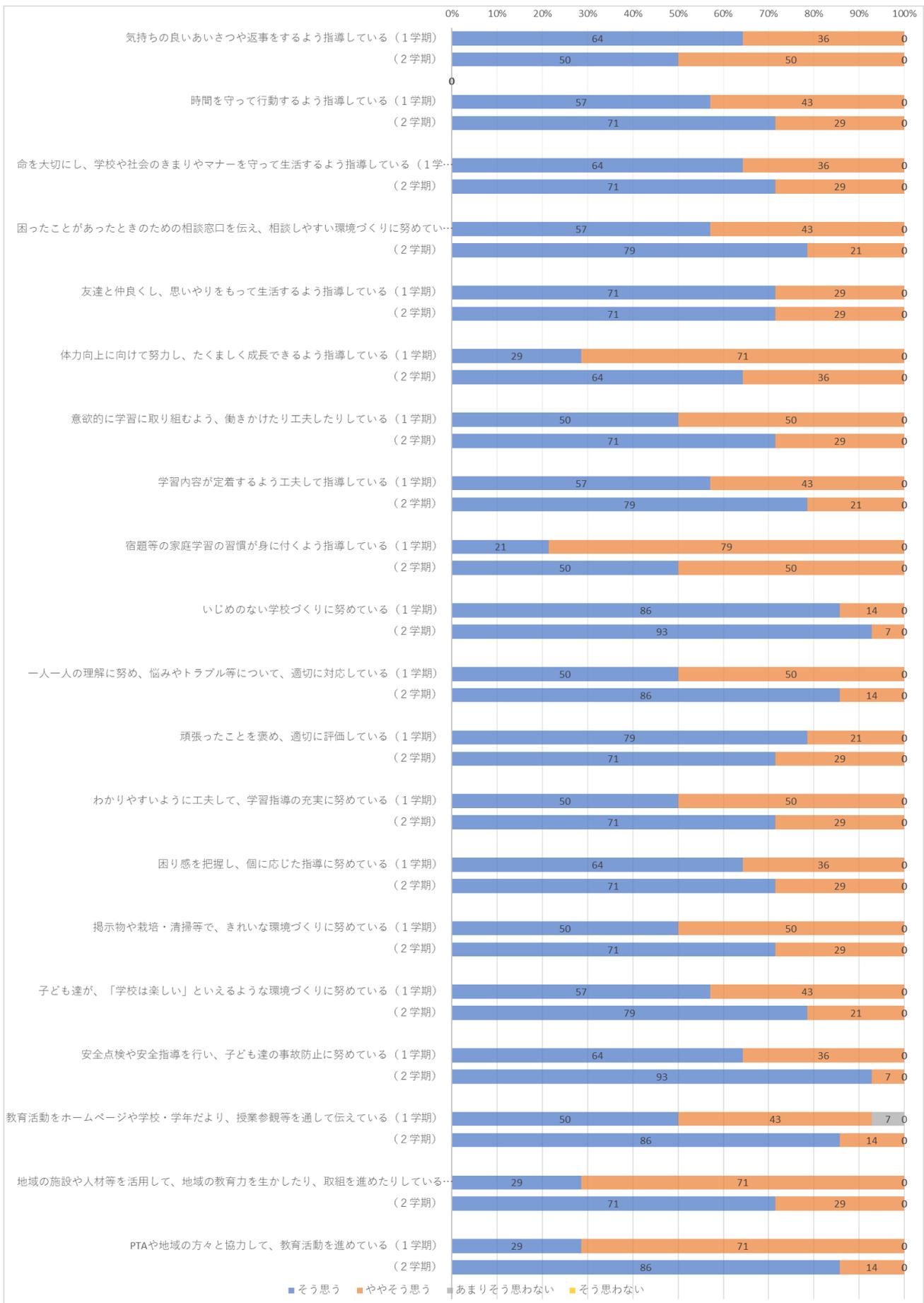
(1) 児童アンケート



(2) 保護者アンケート



(3) 職員アンケート



3 前期・後期学校評価アンケート考察

※「そう思う」「ややそう思う」を併せて肯定的意見と捉える。

【児童アンケートから】

○前期・後期とも多くの項目で肯定的な評価となっている。引き続き、安全・安心な学校づくりに努めていく。

●前期同様に「困ったことがあるときに、家族や先生に相談することができる」の項目が他に比べると評価が低くなっている。学校内外の相談窓口について掲示したりさくら連絡網で配付したりして周知してはいるものの、改善には至っていない。今後は、児童の手に直接わたるように文書を印刷して配付したりして周知し、困ったことがあったときに相談できるようにしたい。

【保護者アンケートから】

○前期・後期で多少の増減はあるものの、多くの項目で肯定的な評価となっている。今後も、子ども達が楽しく学校生活を送る中で、個に応じた対応をし、基礎学力を身につけさせたり、思いやりの心を大切にさせていきたい。

●前期同様に、「子どもは、意欲的に学習に取り組んでいる」、「子どもは、宿題等家庭学習の習慣が身につけている」の項目が他に比べると評価が低い。学校で子どもが意欲的に学習に取り組んでいることが伝わるように学級だよりやホームページ等で発信していきたい。家庭学習については、学級懇談会の際に資料「家庭学習の進め方」に加えて山武市の家庭学習の手引きについても周知し、家庭学習が充実するようにしたい。また、引き続き家庭と連携しながら、家庭学習ががんばり週間に取り組んでいきたい。

【職員アンケートから】

職員は前期同様、学校の取組を肯定的に評価していますが、児童及び保護者の結果を踏まえ、学校教育目標の達成につながるよう取組を改善していく。